



全労連青年部ニュース

YOUTH TOPIC

つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページ <http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>

全労連青年部第 33 回定期大会(続編) 全体討論の様子

今号では、全労連青年部第 33 回定期大会全体討論の発言要旨や感想、その後のとりくみをご紹介します。
大会全体討論では 8 名（4 単産 4 地方組織）の代議員から発言がありました。

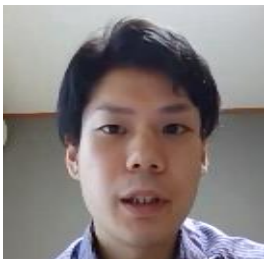


自治労連・用松 寛秋 代議員

1 月に自治労連青年部全国委員会を京都市で開催し、2 月の京都市長選挙の宣伝を青年 30 人ほどで行った。市民と対話して市政について考えること、選挙に行くことの大切さを自分の口から説明し、身をもって労働組合が首長選挙にとりくむ意義について考える機会となった。

愛知県本部では 2 月に愛労連と協力し最賃生活体験を行い、78 人が参加。時給 926 円では到底生活できないという声がほとんど。体験中インフルエンザにかかった人の「病院代医療費が高くついた。最賃だと病院にも行けない」という声がとても印象的だった。病院にも行けないという事実が強烈で、健康に生きる権利すら与えられないものだと考えると、すぐに 1,500 円の引き上げについて要求することは当然の権利だと感じる。人勤に関わって公務員にも関係してくる問題。引き続きとりくんでいきたい。

今後、オンラインも活用しながら新しい青年の要求に対応し、WEB アンケートなども計画している。今こそ労働組合の役割は重要。コロナに負けず、活動を絶やさぬようにともにがんばろう。



国公労連・岡野 健太 代議員

国公青年フォーラムは昨年 10 月に福島県で「国公青年交流集会 2019」を開催し、全国から約 120 人の青年が参加。学習テーマは「自然災害と公務」。公務公共サービスが果たす役割を学び、普段は業務内容も違う青年が交流を持ち、産別結集の意義を感じる機会となった。楽しく気さくに交流できたのは青年の強みであると実感。

7 月には青年の要求前進のため意見集約を行い、内閣人事局・人事院・財務省交渉を実施。今年は新型コロナウイルス感染症に関した要求も加えて、現場の切実な状況を訴え、改善するよう迫及した。

各現場では感染症対策を配慮した業務が続き、慣れないテレワークや出勤抑制などによる業務の遅れによって、長時間過密労働・休日出勤など負担が増えている。組合活動も自粛を求められ、青年が重視してきた交流・レク活動、新採歓迎会や組合説明会ができないなど環境が大きく変化した。従来は活動が得意なものであれば違う観点でとりくむことが重要。青年として勇気をもって新たなとりくみに一歩踏み出していきたい。



建交労・山内 理恵 代議員

建交労全国青年部では核兵器のない未来をめざし、毎年「反核トラックキャラバン」にとりくんでいるが、今年は例年通りのとりくみを断念。しかし、意地でも「中止」にはさせないという思いで「反核キャンペーン 2020」と題し、「思いよ届け！折り鶴プロジェクト」「集めよう！ヒバクシャ署名」「核兵器いらない！Twitter プロジェクト」の3本柱で行動を呼びかけた。全国から届いた32,000羽を超える折り鶴を広島市の平和記念公園と長崎市の爆心地公園に納め、約3カ月で1,154筆の署名を集め、今回開設したTwitterアカウントで活発に仲間の想いを発信することができた。各地から「とりくみにみんなで関わることができた。今後も続けてほしい」「コロナ禍で暗い雰囲気だったが、綺麗にできた千羽鶴を見てみんな感激していた。青年部の企画に感謝」などたくさんの嬉しい声が寄せられた。恒例行事でも、どうして行うのか？同じやり方でいいのか？など、毎回考えて深めることが大切だと気づかされた。

数カ月ぶりに青年部委員会でメンバーと会えたときは、心から嬉しい、楽しいと思えた。また多くの青年たちと会うことができる時のために、今できることを考えていきたい。

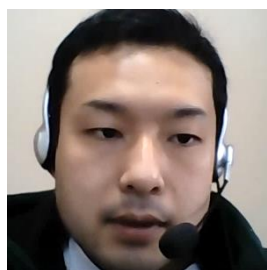


日本医労連・春山 未央 代議員

日本医労連青年協は「遊び・学び・アクトする」をスローガンに活動している。今年開催予定だったブロックアクト（地方協単位の青年集会）について何度も議論を重ねたが、中止という結論に至った。青年たちはとてもショックを受けた。特に全地方、各全国組織で2年越しに準備を進めてきた運営側の落胆ぶりはとても大きいものだった。

しかし各地から「何もしないわけにはいかない！」という切実な声が集まり、オンラインアクトを開催、全国から100人以上の青年が集まった。特別報告ではコロナ病棟で勤務する青年から「急な病棟編成が行われ、コロナ最前線に立たされるのは持病がなく体力のある青年職員。めまぐるしく労働条件が変化し、現場はかなり疲弊した」と語られた。この状況だからこそ「この働き方おかしいのではないかと」と疑問を持ち声を上げていくことが大切だと感じた。大いに交流し、「また明日からがんばろう！と元気が出た」との嬉しい感想も寄せられた。

医労連の青年たちは集まって交流するのが大好き。仲間に会えないのは本当に寂しいが、今まで続けてきた活動の熱意を消さないためにもweb企画で英気を養い、次に会える日を楽しみに全国の青年の要求に寄り添いながら活動を前進させていきたい。



北海道・笠松 大輔 代議員

道労連青年協は昨年秋に恒例のボウリング交流会を実施。20人以上の参加で大いに親睦を深めることができた。しかし青年協への結集が札幌で活動している組織に限られている現状がある。それを打破し拡大していくため、道内の地方組織や単組へ青年の結集状況をFAX・メール・電話で調査した。都市部の少数の青年が青年協へ結集できるという状況を確認した程度で、青年の掘り起こしはあまりできなかったが、自分たちの足元、青年活動の土台となる状況を自分達で調査したことは大きな意義があったと思う。

コロナ禍で、さっぱり青年ユニオンでは年間20件程度だった相談件数に対し、今年4月で10件、5月には49件もの相談が寄せられた。企業への団体交渉だけでは解決できず、行政や国の政策の問題が大きいと痛感。休業補償は企業が動いてくれないと進められず、制度が労働者目線ではない。札幌に多いコールセンターで感染症対策がおざなりになっているという問題では市に是正の申し入れを行った。学校休業対応助成金の申請が企業任せで、公的な支援が必要な労働者に行き届かない問題を是正させるため、署名活動を紙媒体とネットで展開している。ぜひ協力してほしい。労働者が困難な状況の中、労働組合の力や価値が輝きを見せていると確信している。ともに頑張ろう。



東京・岩井 佑樹 代議員

東京地評青年協では昨年度の都政学習会に続き、青年の声を集めて要請書をつくり、都議会各会派への要請行動や、都知事選候補者と懇談を行った。要請では青年層向けの家賃補助と最低賃金について都独自のルールをつくり引き上げること、コロナ関連の補償を都として行うことを求めた。私は首都圏青年ユニオンに所属しており、青年ユニオンがコロナ禍の中行ったホットラインのデータを資料につけて報告した。非正規の相談がほとんどで休業手当関連が6割。「感染予防が十分ではないのに出勤を求められる」「正規には休業手当を出すが非正規には出さない」などの相談が寄せられた。こうしたコロナ禍での労働運動について、青年ユニオン原田委員長を講師に東京ジャックブレ企画として学習会を開催。「それぞれの企業との交渉も大事だがそれだけでは限界がある。社会化すること、対政府・対省庁交渉を行うことが大事」と学んだ。

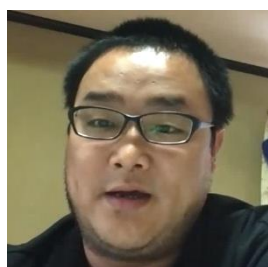
東京ジャックとは、青年層に労働組合を知ってもらい、加入してもらうため毎年東京で行う青年大宣伝行動。今年は11月8日新宿駅東口アルタ前にて行う。SNS発信に力を入れる。東京地評青年協 Twitterにも注目いただきたい。



岡山・大森 俊明 代議員

私は岡山医療生協に所属している。感染拡大第一波で医療崩壊寸前にまで陥ったが、そもそも人口に対する医師の数が日本は非常に少なく、主要7カ国の中で最低。公立・公的病院の再編や統合によって病床も大幅に減らされようとしている。看護・介護の現場では夜勤は欠かせず、身体への負担がとても大きい。医療・介護サービスは診療報酬、介護報酬という全国一律の公定価格によって決まっているが、どちらも連続して引き下げられ、病床をほぼ満床にしておかないと利益が出ない。ところが、コロナにより患者さんの医療機関離れが起きて収益が減少し、全国の医療機関は窮地に陥っている。経営破綻してしまえば、さらなる感染再拡大や、今後起こり得る新型感染症の制御など不可能。早急に医療関係者の負担軽減、増員と診療報酬・介護報酬の大幅な増額を求めている。私が所属する病院でも県に要請してようやく補助金が出たが、現在も大幅な赤字の状況が続いている。

また、大きな問題となっているのが医療従事者に対して心ない差別や偏見が一定数あること。皆さんの周りにも感染拡大防止のため日夜奮闘している人がたくさんいると思う。あたたかい目で見守ってほしい。



愛媛・山内 佑樹 代議員

愛媛労連青年部は3月に「愛媛労連青年春闘交流集会」を開催。全労連青年部担当の井之上さんに「青年を集めて組織拡大しよう」をテーマに講演してもらい、「組織強化なく組織拡大は困難、組織なくして運動は不可能、組織拡大は組織の問題をすべて解決する」という話から、組合員と日常的に会って対話することの重要性など、得るものが多くあった。初参加の青年からも「こういう話はなかなか教えてもらえない。感銘を受けた」と好評だった。

私は西条市職で執行委員長をやらせてもらっている。事あるごとに、「青年の成長なくして組合活動の拡大・活性化はない。いきなり組合を担う役員が出ることはない」と言っている。3年前は加入率2割だったが、昨年7割を超え、今年はコロナの影響で苦労したが、なんと昨年を超えて加入率が増えた。来年こそは100%をめざす。また役員みんなが協力し、組織拡大という1つの目的に向かうことにより、毎月の執行委員会も参加率アップ、執行委員の積極的な発言、役員の若返りなど、組合自体の活性化につながっていると確信している。

愛媛労連青年部で事務局長をしていた稲葉さんが全労連で専従となった。ターニングポイントとして捉え、これまでの方法の見直しも含め、組織拡大を頑張っていきたい。そして皆さんとまた会えることを楽しみにしている。

大会の感想など

コロナ禍の中、多くの仲間が工夫しながら負けずに組合活動に奮闘していることを知って刺激を受けた。

今年はどの業種でも新型コロナウイルスの影響が出ている。しかし行政や制度面での支援が足りていない、行き届いていないと感じた。

コロナがきっかけとなり、労働環境において「矛盾」が見えるようになってきたと感じた。その「矛盾」をいかにして解消していくか。行政への働きかけをもっと推し進めなければならないと思う。

「病まない職場、辞めない職場」づくりの大切さを学んだ。

参加者の色々な思いが聴けてよかった。分散討論は指名制の進行で話しやすかった。

京都の最賃生活体験の動画がよかった。また、青年ユニオンの報告で、最賃周辺で働く非正規の青年がものすごく打撃を受けていることがわかった。最賃の大幅な引き上げが今すぐ必要だという気持ちが強くなった。

分散討論でそれぞれの現場の苦しい状況が報告されたが、その中でできることが共有されてよかった。

初めて大会に参加した。とても楽しく、勉強になった！



分散討論ではリード発言や全体討論を受けて意見交流。各々の職場の実態や悩みを共有し、今どんな要求があるか掘り起こしました。最後は思い思いに要求プラカードをつくり、みんなで掲げました。



「今だからこそ最賃あげろ!」「格差のない生きやすい社会に!自分らしく」「コロナ禍の今こそ!組織強化」「安心して暮らせる社会を!」と掲げられた要求を実現するべく、全国の仲間と力を合わせて運動にとりくんでいくことを確認しました。

大会のその後

さっぽろ青年ユニオン署名提出



署名を渡す稲葉書記長（全労連青年部）



札幌からリモート要請！

11月5日、さっぽろ青年ユニオンは「小学校休業等対応助成金の個人申請を求める署名」を厚生労働省に提出しました。札幌と東京の議員会館内会議室をオンラインでつなぎ、リモートで要請を行いました。署名はオンライン・用紙合わせて1,346人分が集まりました！

東京ジャック開催！



プラカードを持ってアピール



新宿街頭を青年たちでジャック

11月8日、東京地評青年協を中心とした実行委員会団体で「東京ジャック～労働組合青年部大宣伝行動～」を実施しました。好天に恵まれ、22組織96人が参加し12人がリレートーク。「解雇・雇止めを許さない」「人間らしく暮らせる補償を」「自己責任を乗り越える」をテーマに訴え、労働組合に入って実現していこうと呼びかけました。最賃署名23筆、いのち署名14筆を集め、シールボードアンケートには40人が協力してくれました。対話では「収入が減った」「就職先が決まらない」「20キロ痩せた」などの青年の切実な声が集まりました。

感染対策しながら街ゆく青年の声を聴きました ▶

青年の活動紹介やニュースをお寄せください

< youth@zenroren.gr.jp >まで♪(^^)

年間予定

2021年2月20日（土）

2021年5月15日（土）～16日（日）予定

2021年9月25日（土）～26日（日）予定

青年春闘交流集会（オンライン）

ユニオンユースアカデミー2021

全労連青年部第34回定期大会